

「国民の学習活動促進に関する特別委員会」(第6回)

ネットで育てる地域の学びと人材育成

インターネット市民塾

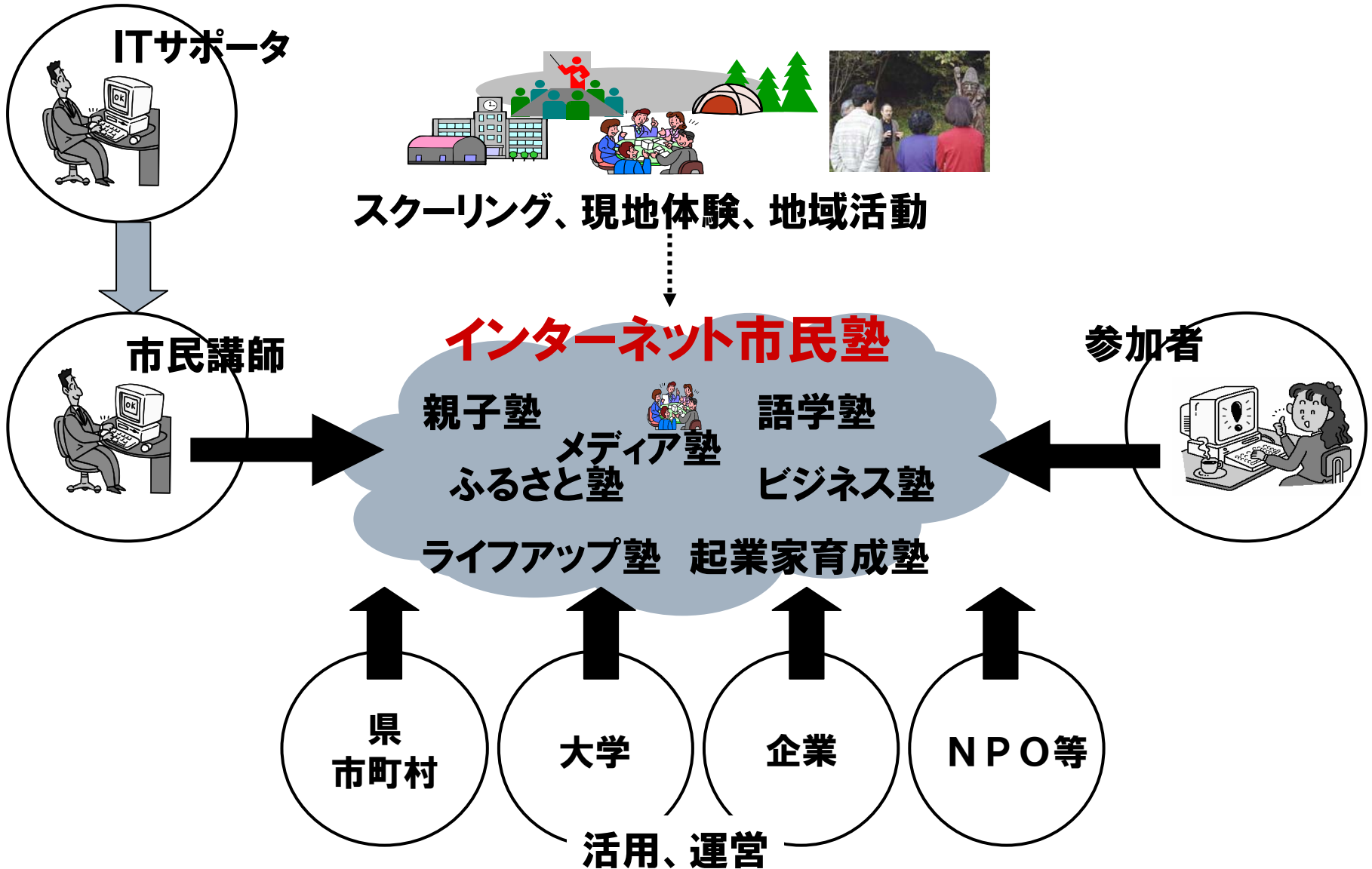
富山インターネット市民塾推進協議会

柵 富 雄

1 インターネット市民塾について ■ねらいとしくみ

- 手を伸ばせばいつでも参加
 - ⇒ 教育に、より多くの社会人が参加する
- 市民の知識発信の場、経験する場
 - ⇒ 知識の水平伝播モデル
- 地域で作り、地域で育てる教育の場
 - ⇒ 官民学の共同運営

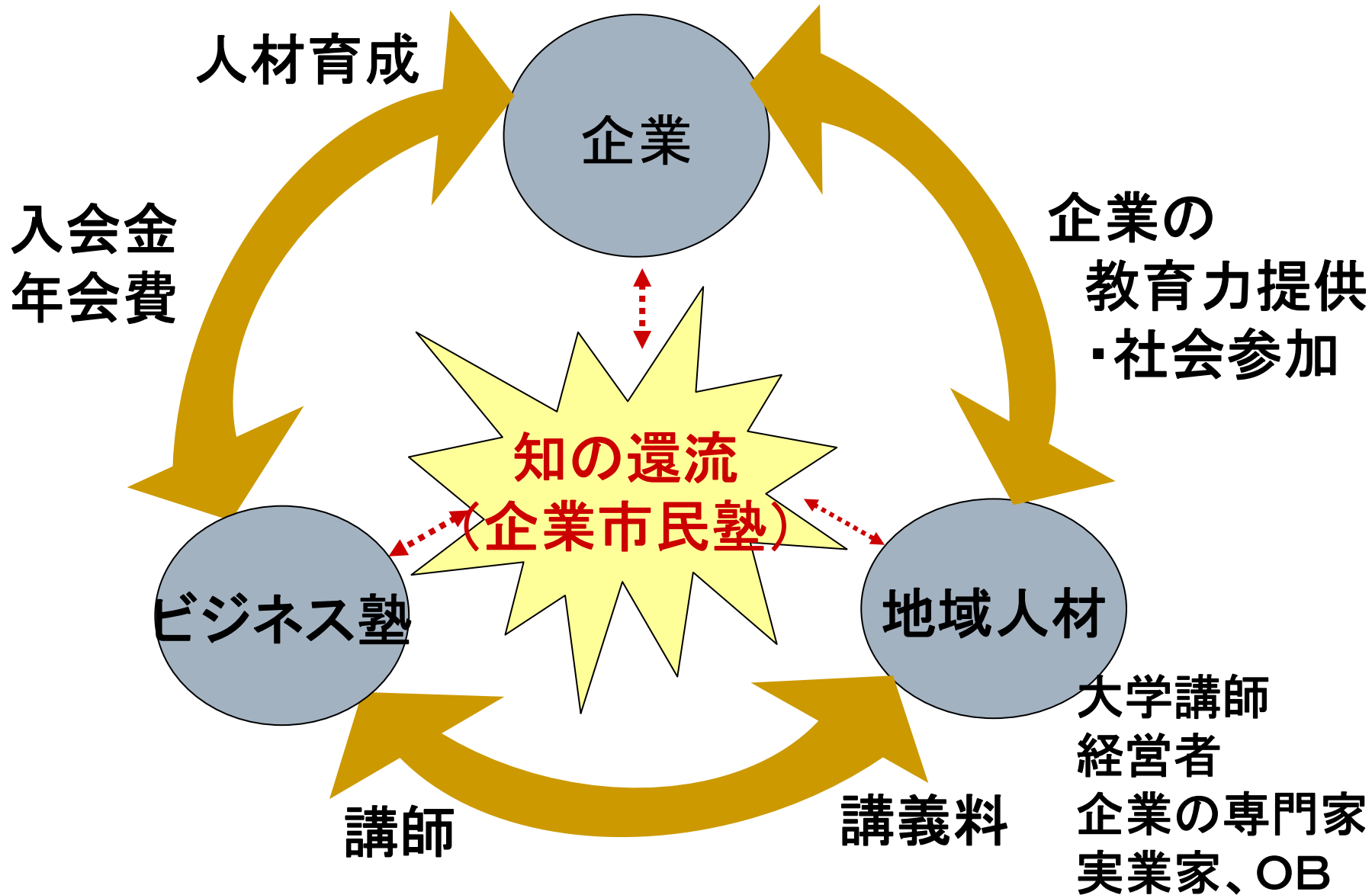
■ねらいとしくみ



■さまざまな市民塾

- 市民講師による多彩な講座
- ビジネス塾
- 現代的課題解決に向けて
- 各地への広がり

■ビジネス塾



■各地への広がり

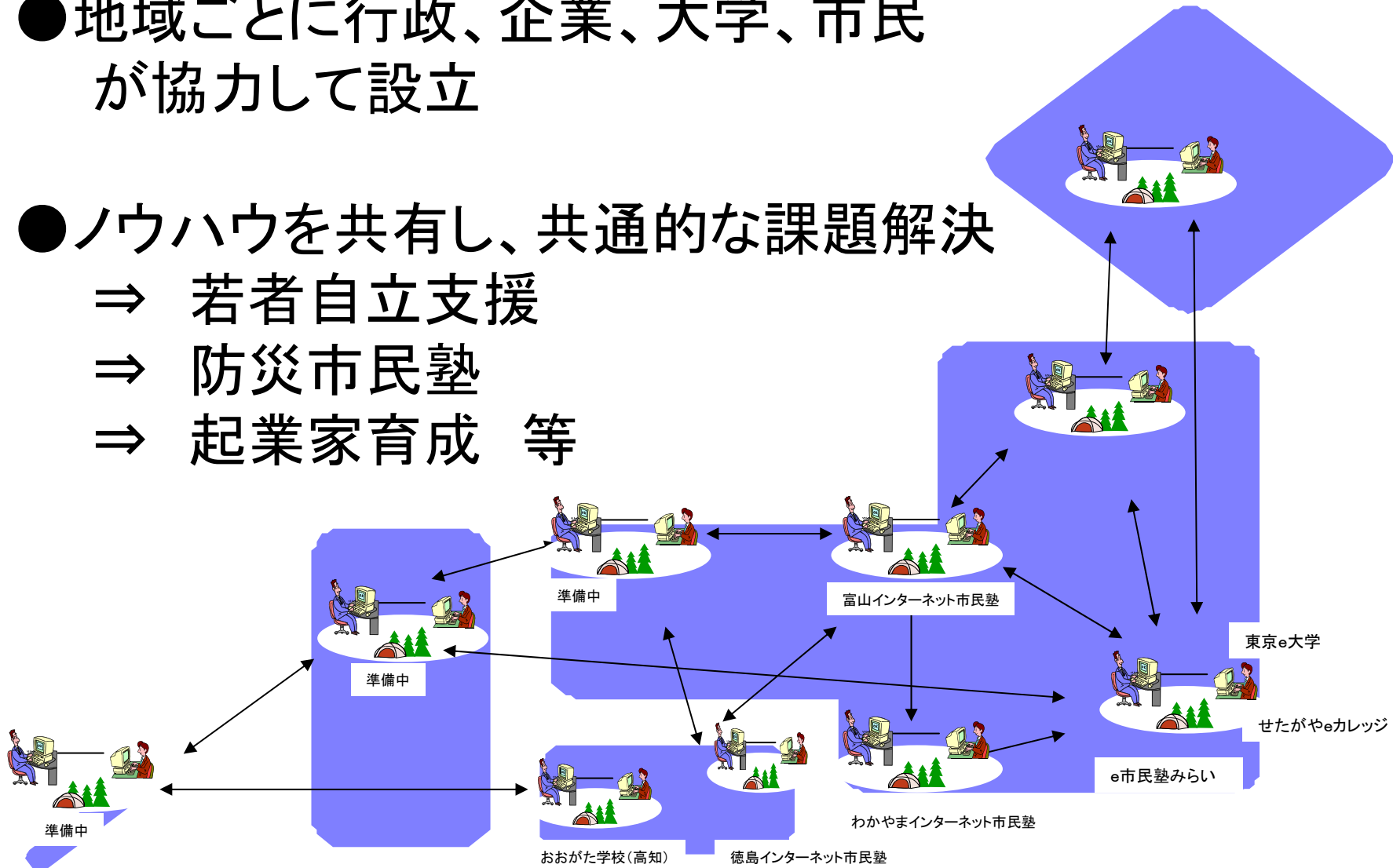
●地域ごとに行政、企業、大学、市民が協力して設立

●ノウハウを共有し、共通的な課題解決

⇒ 若者自立支援

⇒ 防災市民塾

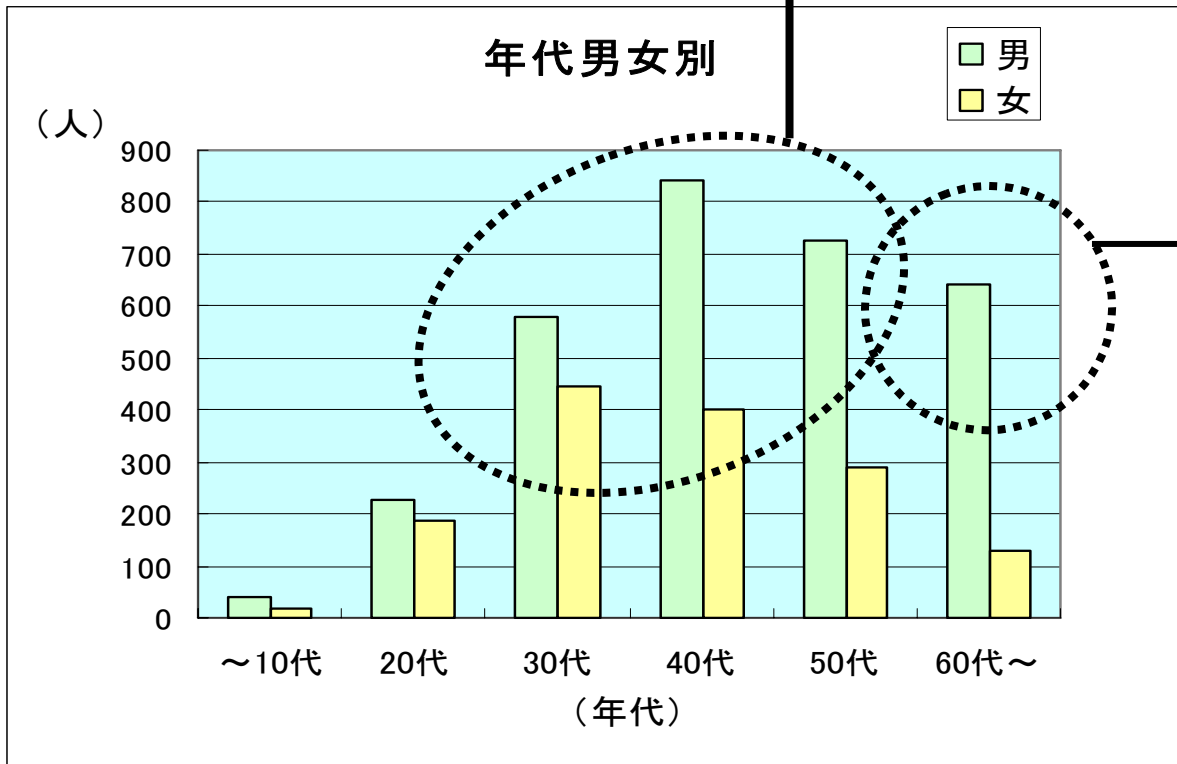
⇒ 起業家育成 等



■参加を大きく拡大

働き盛りの世代が多く参加

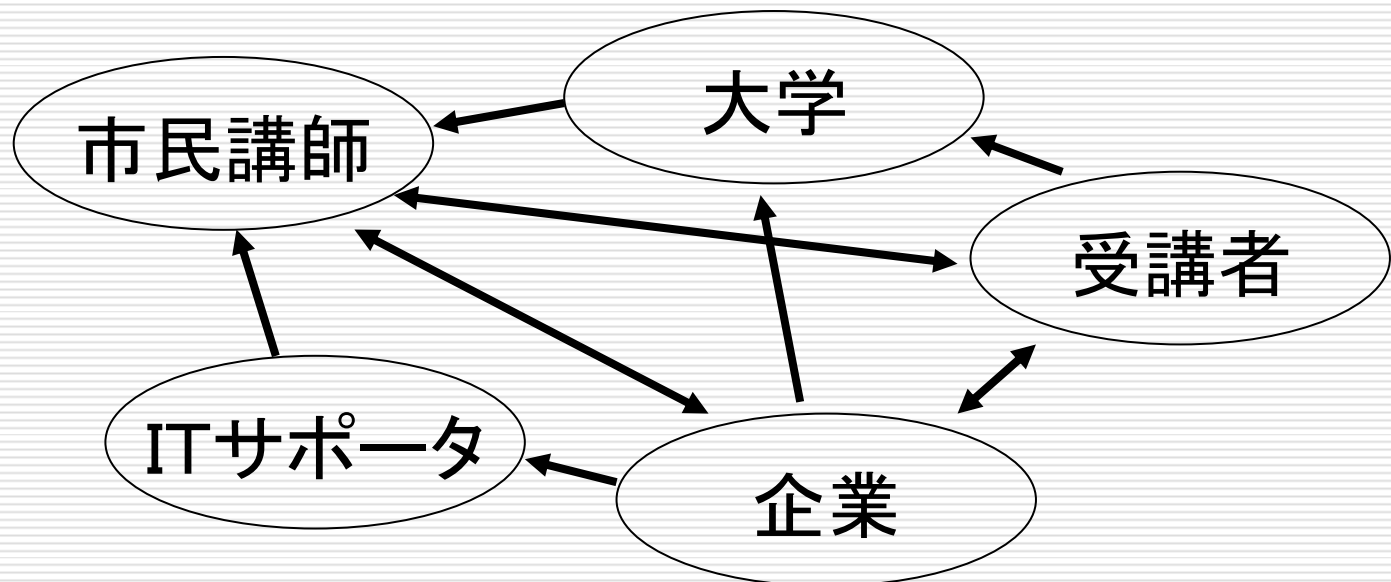
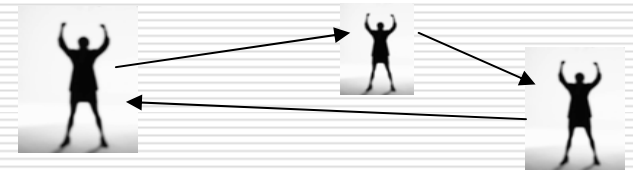
シニア層も増加



年間延べ利用者
約10万人
約4割が富山県外
↓
各地が富山の
学びに参加

■ 知の還流

- 地域の人が知識財として顕在化
「暗黙知」から「形式知」へ
シニアの「知の社会還元」
- 「教えることは最高の学習」
- 学習コミュニティの形成



■市民塾におけるICTの力

□ 道具として ・・ eラーニング

知識学習だけでなく、参加のきっかけ、人のつながりを生む 副産物としてのコンテンツ

□ メディアとして

知の水平伝播に適したメディア

マスメディアにはない伝播

□ 場(プラットフォーム)として

「小さな知の森」がたくさん出来る場

産学官の協働の場

2 これからの生涯学習

■江戸時代の富山に学ぶ

□ 三大ネットワーク

- ・富山の薬売り
- ・北前船
- ・立山信仰

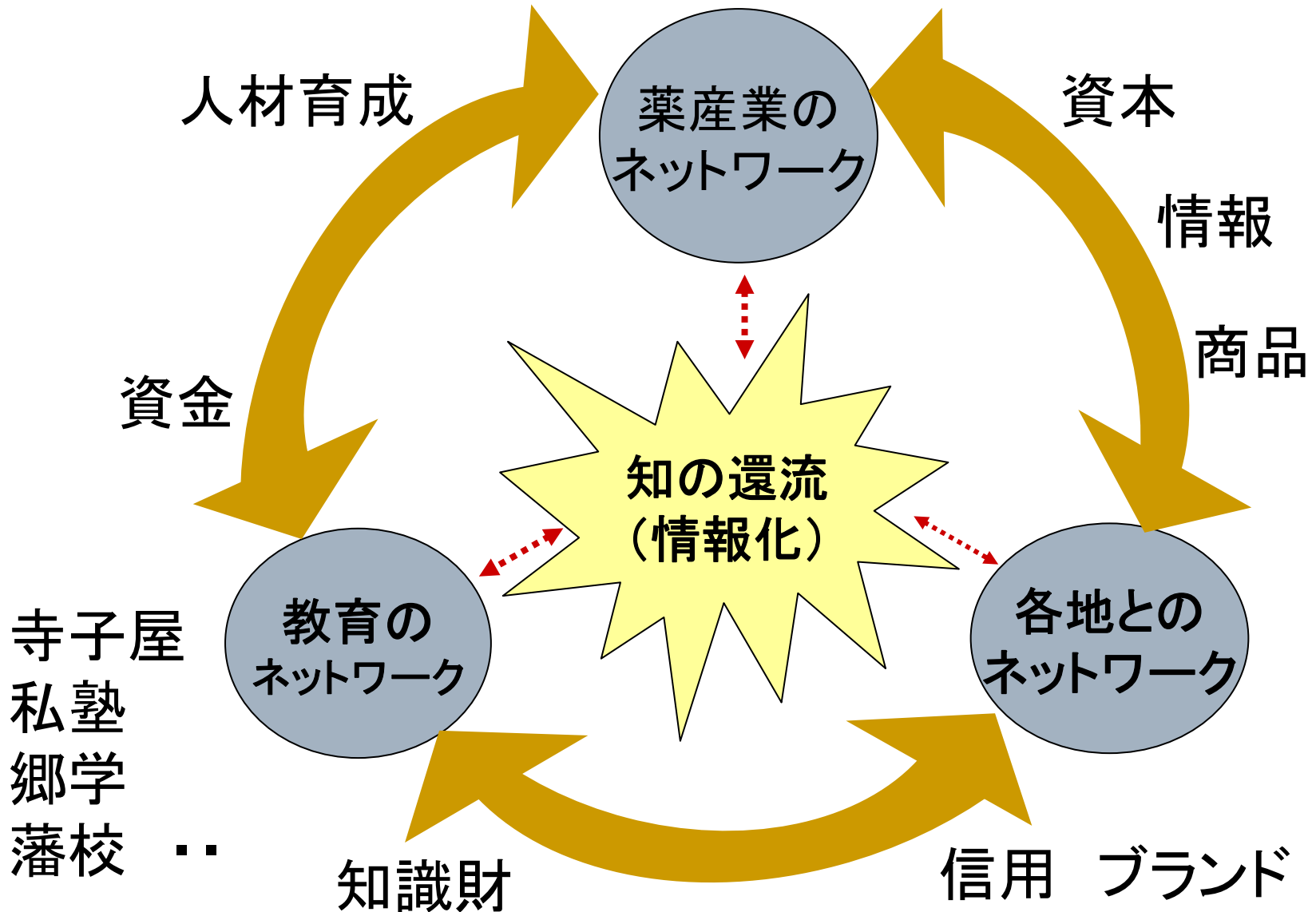
□ 富山の薬産業を支えたもの

- ・画期的なビジネスモデル
- ・人材育成を進める教育システム
- ・企業、金融、行政の協力体制

□ ネットワークが教育を高める

- ・売薬さん 基礎学力、教養、人格形成が求められた

江戸時代の富山に学ぶ



□ 「生涯学習」の捉え方

- ・学習の場所？
- ・分野による偏見？ 横断的な捉え方は？

□ 現代的課題への対応

- ・物質的な反映を遂げても心がすさむ時代
- ・社会参加しない人々
- ・シニアは知識財の宝庫

□ 推進課題

- ・コストの捉え方、成果の可視化
- ・官民学をつなぐ地域のリーダーはだれ？
- ・水平伝播型への再設計

■ 水平伝播型への条件

□ これまで ..

推進体制、施設の整備、ICTの発達・整備

これから .. 必要なのは「イ・ト・コ」

□ インセンティブ

動機(気付き) 物心両面 可視化

□ トラスト

信頼、保障、認める

□ コネクター

知識財のコーディネート、市民塾推進者

■ 水平伝播促進策(例)

□ パスポート制度

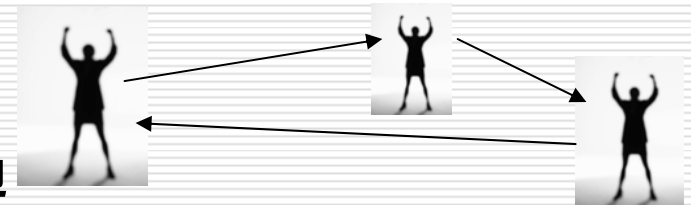
教育への参加記録(学習、講師、ボランティア・・・)
認定制度、教育グリーン券的な活用

□ 企業の教育への参加を促進する

教育人材として活動(教育力を地域に提供)
学習者を企業で生かす

□ 認める

活動企業の表彰、税制優遇



□ 保障する

著作権管理、高度化、認定者の育成
プラットフォーム